

平成26年度事業計画

資金の運用による果実を事業運営の柱としている当財団にとっては、長期間続く超低金利下での資産運用は誠に厳しい状態にある。こうした厳しい状況下ではあるが、平成25年度の事業はほぼ計画通り終了する見込みである。しかし、資産運用面では最近の円安傾向を受けて予算超過が期待出来るものの比較的高利回りを維持していた債券の繰上げ償還が相次いで発生しており、再投資先の利率低下により今後の収益は一層の減額が避けられない。

当財団としては、ここ数年支出が運用収入を大幅に超過する状態が続いており資産の取崩しにより事業を行なってきたが、26年度は上記のように収支減少が継続するため、多額の資産取崩しが避けられそうにない状況にある。

こうした厳しい環境下ではあるが公益財団としての使命を考え、平成26年度事業計画は予算の大きな比重を占めるは自然科学研究助成(公1)は減額し、その他褒賞(公2)、調査研究(公3)、音楽(公4)については前年並みの事業を計画した。ご審議の程よろしくお願ひ申し上げます。

26年度の事業概要は以下のとおりである。

事業概要

(1) 自然科学研究助成(公1)

①学術研究助成(第26回松尾学術研究助成)

対象研究分野 原子分子物理学及び量子エレクトロニクスの基礎に関する実験的・理論的研究。

助成対象者 大学等の研究機関において自然科学分野の研究に従事している若手研究者

推薦者 財団の定める全国の大学、研究機関、関係学会等

助成金額 総額2,000万円

件数 4～5件(1件当たり200～400万円)

募集期間 4月1日～7月31日

審査・決定 自然科学選考委員会の選考を経て、理事会において決定する。(9月中旬予定)

②研究集会・国際共同研究の開催及びこれらへの参加に対する助成

対象研究分野 前記学術研究助成の分野

助成対象者 研究集会開催責任者、国際共同研究にあつては代表研究者
海外の国際会議に出席し、対象研究分野の研究論文発表を行う若手研究者

助成費 総額 50万円(2～3件)

募集 随時受付
審査・決定 選考委員長の審査を経て、理事長が決定する。

(2)褒賞（公2）

①松尾財団宅間宏記念学術賞

授賞対象者 原子分子物理学と量子エレクトロニクスの研究で特に業績が顕著と認められる研究者(若手研究者を優先)
推薦者 財団の定める全国の大学、研究機関、関係学会等
賞金と件数 原則として1件 賞金 200万円
募集期間 4月1日～7月29日
審査・決定 審査は前記学術研究助成の選考委員会が当り、理事会において決定する。

②（堀素夫賞）

授賞対象者 確率・統計分野で、特に数理的研究業績が顕著と認められる研究者。
年齢不問
』薦者 関係する分野の学識経験者
賞金と件数 原則として1件 賞金 200万円
推薦期間 追って決定
審査・決定 追って決定

(3)調査研究（公3）

平成25年度は、同年の理事会で承認された事業計画どおり、『科学と政策の新しい連関』に関する典型的な事例として、レーザー研究史の実態を、掲書の先生方による宅間宏前理事長の追悼寄稿として収集し、掲書の先生方の編集において、単行本『レーザーの50年—基礎研究からイノベーションまで—(帯：巨星宅間宏の追悼が映し出した科学のロマン・真実のビーム』の出版の成果をみた。平成26年度は、そこで、近藤次郎元学術会議会長と宅間宏元学術会議特別委員長の懸案となったことが浮き彫りになった『文化としての学術』の課題に関する国際的世論の勃興に供する元本を作成するため、『文化としての学術』のコンセプトを、米国科学アカデミー紀要に発表されたマレー・ゲルマン博士らの研究論文「The origin and evolution of word order」の検証をもとに深耕して一定の研究論文を作成する。即ち、「基礎学術の振興には、基礎研究に対する判断軸を目的論(Teleology)から存在論(Ontology)へ転換するメンタル・マトリクス転換が必要であり、そのキーワードが『文化としての学術』である。」という両氏の懸案となった課題に迫る研究の序章である。

当研究調査（公3）としては、調査研究費、会議費、印刷費等を含め、平成25年

度と同額の 272 万円を計上する。

4)音楽助成（公4）

①音楽助成(松尾音楽助成)

優れた若手弦楽四重奏団の育成を目的とする音楽助成で、当財団の特色ある助成として実施する。

対 象	若手の弦楽四重奏団(平均年齢 35 歳以下)
推薦者	財団の定める音楽大学、管弦楽団、又は財団役員を含む音楽界有識者
助成金額	総額 400 万円(助成期間 1 年)
助成団体	助成団体 1～2 団体
募集期間	5 月 1 日～12 月 27 日
審査・決定	書類選考の後、翌年 2 月オーディションを行い音楽選考委員会の審査を経て、理事会において決定する。

②コンサートの開催

すでに松尾音楽助成を受けた団体の研修成果の発表の場として、一般聴衆を対象とした入場無料のマツオコンサートを開催する。(翌年 2 月、津田ホール)

選考委員会

自然科学選考委員会(学術研究助成・褒賞)

委員長	藪崎 努(京都大学名誉教授)
委員	市川 行和(宇宙科学研究所名誉教授)
	加藤 義章(光産業創成大学院大学教授)
	北野 正雄(京都大学大学院教授)
	山崎 泰規(理化学研究所上席研究員)
	(補充 2 名予定)

音楽選考委員会

委員長	岡山 潔(東京藝術大学名誉教授)
委員	大谷 康子(東京音楽大学教授)
	川崎 和憲(東京藝術大学教授)
	澤 和樹(東京藝術大学教授)
	原田 幸一郎(桐朋学園大学教授)
	山崎 伸子(東京藝術大学教授)

以上

平成26年度収支予算書(事業区分別経理)

〈平成26年4月1日～平成27年3月31日〉

(単位:円)

	公益目的事業会計						法人会計	合計
	公1	公2	公3	公4	共通	小計		
	自然科学助成	褒賞	調査研究	音楽助成				
I 一般正味財産増減の部								
1.経常増減の部								
(1)経常収益								
①基本財産運用益								
基本財産利息	2,430,000	630,000	709,000	879,000	166,000	4,814,000	4,815,000	9,629,000
②特定資産運用益								
特定資産利息	6,083,000	1,577,000	1,773,000	2,199,000	418,000	12,050,000	5,165,000	17,215,000
③受取寄付金						0		0
④雑収益					0	0	5,000	5,000
経常収益計	8,513,000	2,207,000	2,482,000	3,078,000	584,000	16,864,000	9,985,000	26,849,000
(2)経常費用								
①.事業費								
助成費	20,500,000			5,295,000		25,795,000		25,795,000
褒賞費		4,000,000				4,000,000		4,000,000
調査研究費			2,720,000			2,720,000		2,720,000
選考費	1,940,000	906,000		1,765,000		4,611,000		4,611,000
役員報酬	1,470,000	630,000	3,150,000	630,000		5,880,000		5,880,000
給料手当	800,000	260,000		740,000		1,800,000		1,800,000
退職給付費用	355,000	190,000	720,000	95,000		1,360,000		1,360,000
法定福利費					15,000	15,000		15,000
会議費	700,000	144,000				844,000		844,000
旅費交通費	223,000	82,000	128,000	73,000		506,000		506,000
通信運搬費	160,000	50,000	73,000	120,000		403,000		403,000
消耗什器備品費					15,000	15,000		15,000
事務用消耗品費	16,000	4,000	8,000	12,000		40,000		40,000
印刷製本費	20,000	5,000	10,000	15,000		50,000		50,000
借室費					1,628,000	1,628,000		1,628,000
②管理費								0
役員報酬						0	2,520,000	2,520,000
給料手当						0	1,800,000	1,800,000
退職給付費用						0	640,000	640,000
法定福利費						0	3,000	3,000
会議費							926,000	900,000
旅費交通費						0	407,000	407,000
通信運搬費						0	448,000	448,000
消耗什器備品費						0	80,000	80,000
事務用消耗品費						0	110,000	110,000
印刷製本費						0	506,000	506,000
借室費						0	1,627,000	1,627,000
図書費						0	132,000	132,000
雑費						0	1,300,000	1,300,000
経常費用計	26,184,000	6,271,000	6,809,000	8,745,000	1,658,000	49,667,000	10,499,000	60,166,000
評価損益等調整前	-17,671,000	-4,064,000	-4,327,000	-5,667,000	-1,074,000	-32,803,000	-514,000	-33,317,000
基本財産評価損益等								
特定資産評価損益等								
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	-17,671,000	-4,064,000	-4,327,000	-5,667,000	-1,074,000	-32,803,000	-514,000	-33,317,000
2.経常外増減額								0
(1)経常外収益								0
(2)経常外費用								0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
当期一般正味財産増減	-17,671,000	-4,064,000	-4,327,000	-5,667,000	-1,074,000	-32,803,000	-514,000	-33,317,000
II 指定正味財産増減の部						0		0
当期指定正味財産増減額								
III 当期正味財産増減額	-17,671,000	-4,064,000	-4,327,000	-5,667,000	-1,074,000	-32,803,000	-514,000	-33,317,000